

世界にひとつのマイ提灯！ 保安用資機材製造で培った 技術力を活かす

ノーベル工業

昭和28年3月に設立、今年60周年を迎えるノーベル工業（品川区大崎、志賀康弘社長、03・3492・0551）は、主に警察機動隊の装備品を手がける保安用資機材の製造販売会社である。特に、特殊警棒は昭和30年に製作、昭和37年には警察官警棒と指定されて大きなシェアを占め、今日まで永きに亘って使用されている。

警棒以外に今力を入れている製品が、今回紹介する「提灯」である。提灯の「提」は手にさげるといふ意味で、いわば昔の懐中電灯だ。時代劇等から、蝋燭を点して持ち歩く和紙でできた籠をイメージされる方も多いかもしれない。

しかし、同社の提灯は、耐久性に優れたポリプロピレンという樹脂を用い、10年以上使用することも可能である。昔はひとつずつ手作りしていたが、現在は、ブロー成型という吹きガラスと似た原理での機械製。大きなロットでの受注も受け付ける。内部の灯りには豆電球を使用し（大高張提灯は蛍光灯



特製、信ちゃん提灯！

も取付可能）、単一乾電池で点灯することができる。スイッチをONにすると、提灯特有の優しい灯りが辺りを照らし出す。

提灯の大きさは、一番小さな手持ち式の提灯で高さ33cm（灯体部分20cm）、竿等に装着可能な高張提灯は高さ39cm（灯体部分30cm）、一番大きな大高張提灯になると、高さ66cm（灯体部分58cm）あり、かなりの迫力と存在感だ。因みに、現在手持ち式の提灯と高張提灯に関してはLED照明を用いた製品を開発中。近日、販売開始予定である。

提灯の灯体には、文字や防犯等のマークだけではなく、オリジナルイラスト等を載せて（要問合せ）、世界にひとつだけのマイ提灯を製造することも可能である（今回、信用金庫のキャラクターである信ちゃん提灯を製作していた）。
これからのシーズン、防犯や防災用はもちろん、夏祭り等イベント用にも、あるいは部屋を和風に演出するお洒落なインテリアとして、同社の提灯をおひとついかがだろうか。



志賀康弘社長